

京都府 & 同志社大学(経済学部)

学生とともにのぼす京都プロジェクト共同事業

「大学生による子ども向けプログラミングとリテラシー教室」開催



マイコン×Python

レベル別基盤セットアップ


小文字付キーボード開発

■基本情報：

- ①同志社大学(経済学部)、②法雲俊栄、③大学生によるプログラミングとリテラシー教室の開催
- ④市内：同志社大学 今出川校地 2023年12月26日(火)-27日(水) 参加者40名、保護者38名
府内：舞鶴西駅交流センターホール 2024年2月17日(土)-18日(日) 参加者4名、保護者6名
全日程25名の計100名募集。事業学生スタッフ(法雲ゼミ)28名、参加親子総数88名。

■成果報告：

⑤府政課題「子育て」を支援

⑥子育て世代の親子と交流し、SDGs  子ども達に情報教育を提供し社会・地域貢献した。

1. 広報の難：SNS告知による情報発信が子育て世代に上手く伝わらない・届かない。
2. 教育格差：市内と地方の教育に対する明らかな温度差を感じた[要分析]。
隣接学校間でも情報教育の内容に差があることがわかった。
3. 豊富なコンテンツが必要：高学年向けの事業展開やコンテンツが必要である。
4. 地域交流の機会が必須：内容は何であれ、大学生と地域住民が交流する場が大事。

参加者親子方へのアンケート調査：

とても楽しかった、小学生低学年にできるかと思っていたが参加して良かった。子どもの目がキラキラしていた。大学生が優しかった。もっとイベントを開催して欲しいなど。

⑦事業学生スタッフ2年生22名、3年生6名の計28名で実施。

携わった学生へのアンケート調査：

小学生のITスキルの高さに驚いた。子どもによって凄く差がある。好奇心が凄い。

2か月の準備期間で実施できるのか不安だったが成し遂げられた。多くを経験できた。

□本取組の意義：

市内の小学校では、スクラッチ、アンプラグド、ビズケット、マイクロビットなどのアプリケーションを利用したプログラミング教育に取り組まれているところと存じます。

私どもは、少し違った側面から、マイコンとPython言語を組み合わせ、“コマンド操作”を通じてコンピュータを動かす、プログラミングを体験することで、よりコンピュータを身近に感じ、興味を持っていただきたく、事業を進めて参りました。

マイコンは、私たちの日常で、家電製品などの制御装置として機能しており、今後、IoTとセンサー技術が組み合わさることで更なる未来の可能性を秘めています。またPythonは、柔軟性や汎用性が高いプログラミング言語として、人工知能分野での利用が期待されています。

多くの方々が参加

親子リテラシークイズ大会

舞鶴市でも開催

